

會 告

大正七年三月廿一日を以て新に會員となられし諸君は養蠶科本科廿七名、選科一名、製絲科本科十六名、選科六名に有之候。

本年三月諸君に御通知申上候通り本會は支部會各地に設置する事に致し候へ共未だ支部に於ける委員御選舉無之地方多々候。早速御選舉の上御通知有之度候。

本部に於ては本年四月學校前助手舎宅を以て本會の事務所と致し茲に吾會の基礎をして一層確乎たらしむるの端緒を開き申候。本校卒業生上野榮仁、樋口琢磨、白澤幹の三名之に宿泊致し居申候。諸彦御來校の際は是非本事務所に御來訪被下度切望致置候。食事宿泊等も本事務所に於て不自由なく準備致置候。

在校生と卒業生との間の圓滿連絡を圖る爲め本校寄宿舎本舎及東寮に卒業生各一名宛宿泊致して互に母校

永遠の發展に向つて協心努力致居候。只今は本舎に曾山直高君が東寮に、吉野健吉君が宿泊致居候。

五

本年三月卅一日締切を以て御通知申上置候本會特別會費金壹圓御未納の方は至急御送金被下度候。別項特別會費未納人名御覽被下度候。

六

大正六年二月手紙を以て御通知申上置候所の校友會と同窓會との一部的一致と申す事項尙十分御承知無之方も有るやに見受申候間今一應其要點を左に記し申候。

- 一、卒業生は校友會特別會員として毎年金壹圓を庶務部に納附する事。(校友會規則第十三條第三項)
- 二、卒業生は同窓會報及校友會雜誌の配布を受くるものなる事。
- 三、校友會に納附せる金壹圓の用途は主として

イ 雜誌報告發行及送料

ロ 會員の移動報知各種會合の通知

等に候。

右の如くなれば同窓會のみに關する事項例へば事務所設備の器具機械の購入、本年貳月より參月に亘りて發送せる印刷物代及印紙料の如き支出は之を同窓會の會計よりす可きものに候。従つて本會に於て特別會費を

諸君に向つて募集したる次第に候。

七

痛ましき事ながら時の力天の力は人力の如何ともなし難く我同志會員にして希望を永に残して墓中に眠る士の出する既に六名にて候。我會は之等薄幸の同志の靈を慰めんが爲めに追悼金を其折々募集致居候も會員の或諸君の意見として次の如き希望を寄せられ候間之を諸兄に御通知申置候。

一、其都度一般會員に集集するは繁雜なる事

二、會員中には未知の人多き事

三、されば校友會費中より一定金額を追悼金として支出する事

四、同級生は別に追悼金を募集しては如何

右の希望も一考の余地ありと存候。之に對し尙御意見も有之候はば御通知願置候。死は何と申すも人生の一大事實に候。之に對する追悼の方法等は十分考慮を要する事項と存候。諸彦の御一考を煩し度候。

八

會員の移動は各支部に於て互に報ずるは勿論本部には其都度必御一報被下度願置候。

九

本年十二月校友會雜誌第五號發行の豫定に有之候間諸彦振つて御投稿有之度旨委員より希望有之候。締切

は十月三十日に候。論説、調査研究事項、詩文、何れを問はず盛んに御投稿有之度候。原稿用紙御希望の方は校友會文藝部宛御申越次第發送可仕候。

同窓會新會員氏名 (第五回卒業生及選科修業生)

養蠶科 (イロハ順)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 堀越 田治 | 片岡清治郎 | 影浦年丸 | 田附由治郎 |
| 田村三郎 | 田中 照 | 長瀬深見 | 浦山藤吉 |
| 尾見祐八 | 栗原 章 | 丸山武夫 | 後藤宰一 |
| 江頭辰雄 | 荒牧伊勢美 | 天田音三郎 | 秋山愛次郎 |
| 齋藤繁太郎 | 雜賀喜久三 | 岸野潤一 | 弓田 弘 |
| 峯村壽命 | 式田定千代 | 白澤 幹 | 平井洋一 |
| 樋口琢磨 | 日比野一夫 | 關田九平 | |
| 製 絲 科 | | | |
| 石坂虎治郎 | 伊藤喜平 | 伊藤 清 | 井上一郎 |
| 原田 侃 | 富長賢治 | 河合英一 | 川 戶 料 |

中村吉男 梅澤庫太郎 栗田虎太郎 藤方英作
手塚芳太郎 佐藤金六 坂口良吉 宮入誠一

選科修業者氏名

養蠶科

廣井俊一

製絲科

戸村墨三 夏井範永 船越重勝 味澤泰造

本科修業者氏名

友重誠三 中澤文太郎

會員動靜 (大正七年三月以降)

- 藤金作君は本年四月徳島縣廳に轉任せられたり
- 高須兵司君は本年四月松本蠶業試験場に入られたり
- 鶴田定平君は本年四月長野縣廳に轉せられたり